

第33回 GM維持管理推進委員会議事録

1. 開催日時 令和5年10月12日（木） 15時00分～16時00分

2. 開催場所 Zoom

3. 参加者 (敬称略)

委員長 吉開 守

副委員長 井上 好道

委員 松村 孝

同 萩野 豊明

同 清水 壱浩

同 荒木 勇輝

同 手嶋 泰三

同 竹中 史朗 (オブザーバー)

同 松島 誠二 (代理出席)

事務局 大石 直豪

欠席 清水 孝

山下 俊哉

議事経過

初めに事務局より開催宣言と、本日の出欠状況について報告があった。
その後、吉開委員長より、「今日は上期の活動状況を共有して、下期に注力すべき事項を議論していきたい。また、9月末に日本下水道新聞からマンホール蓋の改築サイクルに関する記事が発刊されたため、この記事を活用して改築を加速化させる活動につなげていきたい。」との挨拶があり、議題に入った。

議題1：令和5年度 委員会活動状況の共有について

事務局より、議案書に基づいて上半期の委員会活動状況について詳細な説明があった。
その後、吉開委員長と手嶋委員より以下の補足説明があった。
・地整/県の見取りについて昨年度とあまり変化は見られないものの、研修会開催実績は昨年度を大きく上回るペースで進んでいる。
茨城県では、研修会アンケートを再実施するなど、県の指導力を発揮するための工夫を取り入れた動きも見られるので、他の支部も参考事例として活用いただきたい。
・東北地整では、各県に研修会を実施するようとの指導がされている。
・企画記事について、改築サイクルが1,000年を超えている県は500年と示されている。県によっては下水道着手が遅く、まだ改築に至っていない都市も含まれている。
・全国の既設GM数1,600万基は、国交省が公表している公共下水道事業の下水道管路延長49万kmを根拠に30mで除して推定しているが、大都市に比べ中小都市の山間部などではマンホール蓋の設置スパンが長くなっていることもあり、既設GM数の推定値と実態とで乖離が発生していると思われ、国交省等による確認が必要と考えている。

続けて、マンガ広報誌の配布状況と顧客反応について、以下の各支部責任者および支部責任者の代理から詳細な報告があった。

北海道、関東、中四国、九州支部は、手嶋委員
東北支部は、井上副委員長
中部支部は、清水支部責任者
近畿支部は、荒木支部責任者

この後、事務局からマンガ広報誌の配布活動について以下の補足説明があった。
・マンガ広報誌の作成はJGMA年間活動費の約10%を占めており、配布方針については、配布方法を委員会で議論し、委員会議事録と配布方法に関する事前案内メール、送付状を含めて合計4回にわたって伝達しているが、支部内で共有されず配布方法や活動方針も共有されていない状況にあることが判った。
・コロナ禍もあり支部MTGが東北・関東支部以外では殆ど行われていない期間があったことも要因であるが、様々な制限も緩和されているため、支部内で情報共有と連携を深める支部MTG開催をお願いしたい。
・支部責任者の責任を全うし支部内でのリーダーシップ発揮し、下期のリカバリー活動をお願いしたい。
以上により、議題1を終えた。

その他

事務局より以下5点について説明があった。
・9月20日発刊の日本下水道新聞企画記事に掲載されている方の承認を取得次第、記事を抜粋し標準PPTに組み入れる予定であること。
・SNSに投稿された豪雨時のマンホール蓋の不具合に関する動画と写真を標準PPTに追加すること。
・委員の名刺発注に関する請求金額について、これまではJGMAにて一部負担していたが、インボイス開始等もあり、10月以降は実費を請求させていただくこと。

- ・マンホールサミットin岡崎において、岡崎市の厚意によりJGMAブースを設けていただくことになったため、サンプルのマンガ広報誌とパネルにチラシ1,500部を配布する。併せて「まだ大丈夫は、もう危ない」パネルを展示する。
- ・次回の定例委員会は、東京で2月22日（木）10:00～12:00に開催予定であること。

以上により本日の議事を終え、最後に井上副委員長より、「マンホールサミットに水道展、施工展など多忙な時期だが、マンガ広報誌を活用した提案活動が将来のグラウンドマンホール業界を創ることに繋がるため、一致団結した活動をお願いしたい。」と挨拶があり委員会を終えた。

この議事録を証するため、委員長次に記名押印する。

令和5年10月12日

一般社団法人
日本グラウンドマンホール工業会

GM維持管理推進委員会委員長 吉開 守

